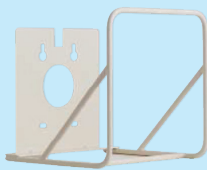


光電式分離型感知器 プロテクタ／天井取付用金具

プロテクタ
(光電式分離型感知器用)

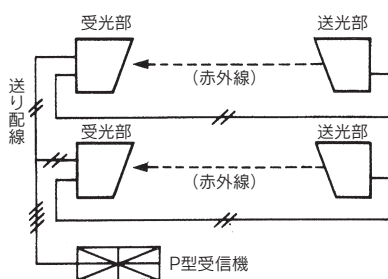
外 観		
品 番	NSY408	
主 材	ガ ー ド	銅棒(φ6) ミルキーホワイト(DA-12) メラミン焼付塗装
材 基	盤	銅板(t=1.6) ミルキーホワイト(DA-12) メラミン焼付塗装
質 量	約520g	
適 合 ボ ッ ク ス		(壁取付時) 2個用スイッチボックス (カバーなし) 2個用スイッチボックス (カバー付) 大型四角アウトレットボックス (スイッチカバー2個用塗代付) 大型四角コンクリートボックス (スイッチカバー2個用塗代付) 露出スイッチボックス2個用

■主な特長

1. 監視距離5～100mを1台でカバー
送光部・受光部間の監視距離を4段階に分割し、設置状況に応じた最適な感度が設定できます。設定は受光部のディップスイッチで簡単に行えます。
監視距離：5～10m／10～25m／25～50m／50～100m

2. 標準P型受信機に接続可能

監視時の消費電流は1mA。標準品のP型受信機に1回線当り1セット接続できます。



●感知器のトラブル表示を行う場合は諸警報付受信機をご使用ください。

4. 感度チェック機能付、
しかもリモートチェックも可能

●受光部側面のモードスイッチを「火災試験」に切り替えると火災試験を実施します。

モードスイッチを「火災試験」にすると、その時点の受光量と動作感度を自動的にチェックし、正常な場合は確認灯(赤色発光ダイオード)が点灯。火災信号を出力し受信機を作動させます。

●感度チェック用にリモートスイッチが設けられます。

受光部の直下附近で操作しやすい壁面に、リモートチェック用のスイッチを設けることで簡単に動作チェックが行えます。

注)この感度チェックは消防法に基づくものではありません。定期点検時には減光フィルターを用いたの作動試験が必要です。

5. 窓汚れ自動補償機能付

感知器表面や光学系(レンズ・受光素子)の汚れによる受光量の減少を自動補償し、常に動作レベルを一定に保ちます。窓汚れが激しくなり、受光量が施工時の約1/2まで低下した場合は、自動的にトラブル表示出力を行い清掃時期を知らせることができます。

6. トラブル表示機能付です

●次のような場合トラブル信号を出力します。
(受光部前面のトラブル表示灯が(黄)が約3秒に1度光ります。)
○窓汚れがいちじるしく、清掃の必要がある場合。
○内部回路に異常が発生した場合。
○徐々に光軸がずれてしまった場合。

天井取付用金具
(光電式分離型感知器用)

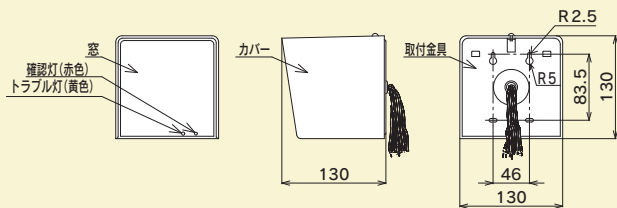
外 観		
品 番	NSY407	
主 材	ボ ッ ク ス	銅板(t=1.6) ミルキーホワイト(DA-12) メラミン焼付塗装
材 質	パ イ プ	16厚銅電線管 ミルキーホワイト(DA-12)
質 量	フ ラ ン ジ	アルミダイカスト ミルキーホワイト(DA-12)
適 合 ボ ッ ク ス		丸型露出ボックス (取付ピッチ73mmまたは84mm)

3. 3パルスカウント方式の
高信頼性タイプ

火災の煙により受光量が規定以下になったことを連続3回確認してから発報する3パルスカウント方式を採用。さらに送光部の発光素子は約3秒に1回発光しており、受光部の受光素子は、発光素子と同期し、発光している瞬間だけ受光する機能も備えています。このため、単発的な外部要因による非火災報が少なくなり信頼性を大幅に向上しています。

光電式分離型感知器 (送光部・受光部共通)

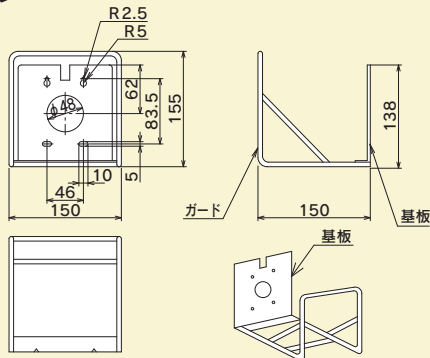
NSL103EXA・NSL204EXA



●送光部には確認灯・トラブル灯はありません。

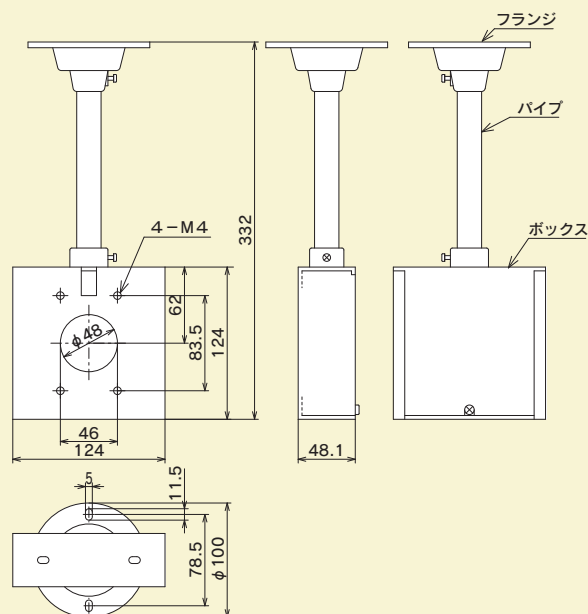
プロテクタ

NSY408



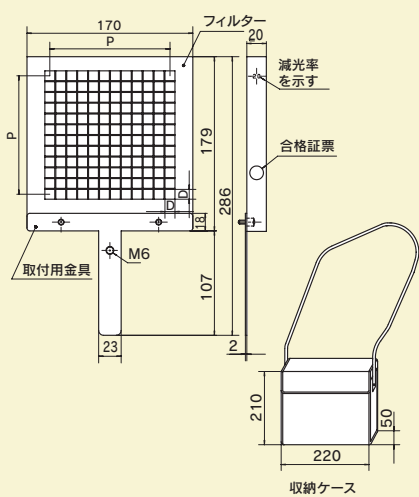
天井取付用金具

NSY407

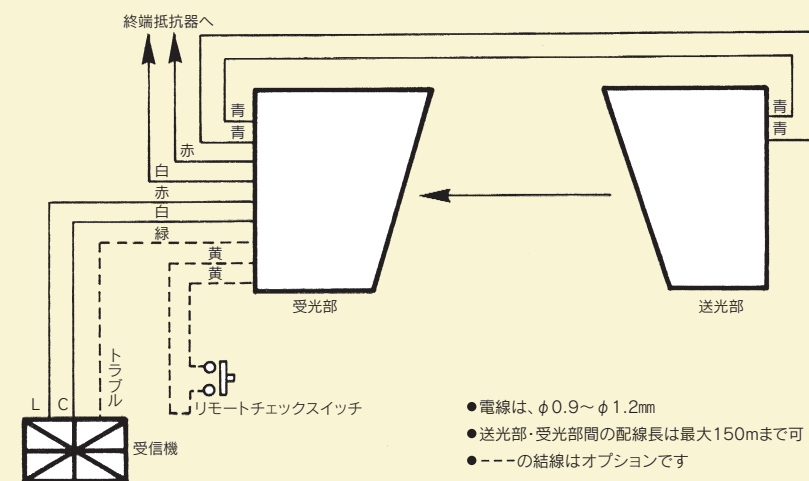


減光フィルターセット

BVT9403K (パナソニック株製)



接続方法

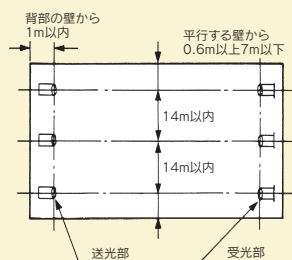


- 電線は、 $\phi 0.9 \sim \phi 1.2\text{mm}$
- 送光部・受光部間の配線長は最大150mまで可
- の結線はオプションです

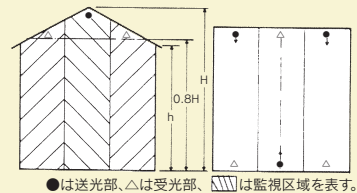
設置基準

設置方法 (傾斜形天井などの例)

光電式分離型を設置する場合、警戒区域の1辺の長さは100m以下とすることができます。(消防法施行令第21条第2項二号)



a. 軒の高さ(h)が天井等の高さの最高となる部分の高さ(H)の80%未満となる場合 ($h < 0.8H$)



●は送光部、△は受光部、斜線は監視区域を表す。

b. 軒の高さ(h)が天井等の高さの最高となる部分の高さ(H)の80%以上となる場合 ($h \geq 0.8H$)
この場合の例においては、光軸の設定は、棟方向と直角としてもよい。

